

市民がつくる環境都市こまき



こまき環境広報

編集:こまき環境市民会議

地球から姿を消す生きものたち

世界中で、乱獲や環境汚染、宅地や産業地域の開発などにより、住む場所を失った多くの生きものが消えていきました。

現在、絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}に指定されている種に対する保護や対策がとられていますが、地球の急激な温暖化によって、住む場所や食べ物を失い、地球上から姿を消してしまう可能性の高い動植物がたくさんいます。



1. 絶滅危惧種とは

絶滅危惧種とは、生息している数がだんだん減っていき、絶滅してしまうかもしれない野生生物のことです。それらの生きもの^{生きもの}の名簿を「レッドリスト」といい、日本では、環境省などが作成しています。

レッドリストでは、種ごとに絶滅の恐れ^{おそれ}の程度に応じて、8つのカテゴリーに分けられ、そのうち「絶滅危惧Ⅰ類」、「絶滅危惧ⅠA類」、「絶滅危惧ⅠB類」、「絶滅危惧Ⅱ類」に該当する生きものを絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}といいます。

生きものが減少してしまう原因として、採取・乱獲、森林伐採、環境汚染、地球温暖化、外来種の増加、里山の管理放棄など、様々な原因があります。



トキ（絶滅危惧ⅠA類）

イリオモテヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類）
(引用：環境省ホームページ)

2. 愛知県における絶滅危惧種の種数

愛知県は、2020年3月に第四次レッドリスト「レッドリストあいち2020」及び「レッドデータブックあいち2020」を作成しました。それによると愛知県内で絶滅の恐れのある種(絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類)の数は、893種(植物529種、動物364種)と報告されています。

3. 小牧市の絶滅危惧種

小牧市の絶滅危惧種について、正確な種数はわかりません。その中でも、平成 23 年に愛知県の天然記念物に指定された「大草のマメナシ自生地」(4,767.89 m²)に生育する「マメナシ」は、愛知県レッドデータブックの絶滅危惧 I A 類に指定されています。

小牧市ではマメナシを守るため、保存活用計画の策定やマメナシが所在する他市町村の自治体・保護活動団体と情報共有を図り、自生地の保存に努めています。



マメナシの花



大草のマメナシ自生地

※大草のマメナシ自生地は、許可なく立ち入ることはできません。

4. 生きものを守る理由

私たち人間を含め、地球上のすべての生きものは、自分一人、ただ一種だけで生きていくことはできません。多くの生命は他のたくさんの生きものと直接・間接的にかかわり、生きていくことができるのです。人間の様々な活動により、生きものが地球から姿を消すことになれば、地球上の生きものや生態系に大きな影響を与えることになります。これ以上生きものが絶滅しないよう、人間と全ての生きものが共存できるような社会を目指していくことが大切です。

私たちにできる絶滅危惧種対策

絶滅危惧種を守る取り組みの一つに、環境汚染や地球温暖化を防ぐことがあります。私たちの日常生活から発生する生活排水やゴミの適切な処理、節電や自動車の使用を控えることによる二酸化炭素の排出抑制などの取り組みを普段から行うことにより、地球環境を守り、間接的に絶滅危惧種を守ることになります。

私たち一人ひとりが環境に配慮した生活をして、小牧市の「マメナシ」を守っていきましょう！



こまき環境市民会館のメンバーになって、環境について一緒に活動しませんか？

興味がある方や一緒に活動したい方のご連絡をお待ちしております！

ホームページ：<http://komakikankiyoushimikaigi.jp/>

事務局：小牧市役所 環境対策課 (0568-76-1181)

会員のつぶやき

マメナシやトキの数が減少して絶滅が心配されることは、なんとなく理解できるが、自分たちが子供のころ身近な生きものであったメダカが絶滅危惧種になるとは、自然界はどうなっているのだろうか。